

5. 若手研究者の育成

- 1) AIT ワークショップ
- 2) 大学院における次世代研究者育成
- 3) 専任・特任教員担当講義

1) AIT ワークショップ

ジェンダー研究所が運営主体を務める国際研究交流プロジェクト

タイのアジア工科大学院大学（AIT）とジェンダー研究所による若手研究者国際交流プログラム

AIT ワークショップは、ジェンダー研究所と、タイのアジア工科大学院大学（Asian Institute of Technology (AIT)）とにより実施されている、国際研究交流プログラムである。

2001 年に、ジェンダー研究センター（現ジェンダー研究所）所属教員と、AIT「ジェンダーと開発」専攻の日下部京子教授らの尽力によって始められ、2004 年には、本学と AIT との間で大学間学術交流協定が結ばれた。以降、協定に基づき、日本ではジェンダー研究所が、タイでは AIT・環境資源開発研究科が運営主体となり、AIT で実施されるワークショップへの本学院生派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、国際研究交流事業をほぼ毎年実施している。お茶大ではもっとも歴史が長い国際研究交流プログラムである。

2009 年度からは、AIT ワークショップ・プログラムは、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013 年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014 年度からは大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」（2020 年度から「研究方法論コースワーク（フィールドワーク）」）を国内事前研修として取り入れた。

大学院講義「国際社会ジェンダー論」での学習とグローバルなフィールドでの実践・交流

本ワークショップの日本からの参加者は、春学期に大学院科目「研究方法論コースワーク（フィールドワーク）」を履修し、開発とジェンダーにかかわるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査方法を学ぶ。その後アジア諸国の将来を担う多彩な人材が集う AIT での研修に参加し、フィールドワークに基づく研究の基礎を実践的に学習する。また各国の院生たちとワークショップで研究交流することで、彼らの熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから研究者としての刺激を得る。帰国してからはジェンダー研究所所属の特任講師が担当する「国際社会ジェンダー論」（本報告書 56 頁参照）にて、タイで得た知見を共有し、国際社会におけるジェンダーの問題の理論的検討を通じて、さらに理解を深める。また参加者は毎年、タイでの研修内容を報告書にまとめている。

ジェンダー研究所は、このような大学院生の国際研究交流プログラムを提供し、大学院生の教育カリキュラムを補強することで、次世代のジェンダー研究者、あるいは、NGO や国際機関で国際協力の仕事につく人材の養成に持続的に取り組んでいる。

■2024 年度 AIT ワークショップについて

AIT ワークショップへの本学院生の参加者は、まず国内事前研修に相当する「研究方法論コースワーク（フィールドワーク）」の授業をとり、AIT への派遣に備えて学ぶこととなる。

7 月に AIT 院生が来日をしたが、本年度の AIT 院生たちの研究テーマは、農業とジェンダーについてであった。そうしたテーマに合わせて IGS 所属教員と、学外の関連団体や研究者からも多大なる協力を得て、日本における農業と女性の政策および取り組み、農とジェンダーにおける歴史と現状、海外の農業に対する日本の支援について学び、さらに実際に農園に行くプログラムを組み、インタビューやフィールドワークを実践する機会を設けた。プログラム参加の本学院生はすべての日程でサポートに入り、適宜、通訳や説明の補足を行なったが、これもまたこのプログラムならではの実践の一つである。

AIT ワークショップ過年度実績

実施年度	研修テーマ
2001	Gender and Development
2002	Gender, Work and Globalization
2003	Women, Globalization and Home-based Work
2004	Female Migrant Workers' Rights in Thailand
2005	Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women
2006	〔実施せず〕
2007	Gender, Rights and Empowerment
2008	Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives
2009	Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis
2010	Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan
2011	Gender and Disaster 〔特別プログラム：本学でのシンポジウム開催〕
2012	Sexuality
2013	Global Justice, Women's Health and Prostitution
2014	1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment
2015	Labor, Sexuality and Empowerment
2016	Labor and Association from Gender Perspective
2017	Sexual minority and migrant workers from gender perspectives
2018	Power and Sexuality from Gender perspectives
2019	Gender and Empowerment in Urban Space
2020、2021	〔院生派遣は見送り〕
2022	Education from intersectional Perspective
2023	After Covid-19
2024	Gender issues and Youth

9 月には本学院生がタイへと派遣され、AIT の日下部京子教授のもとで組まれた充実したプログラムに沿って研修を行ってきた。本年度は 8 名の参加者だったが、しっかりと問題意識を持った院生たちは自身の関心に基づいたインタビューをし、各種レクチャーを受け、貴重な経験を積んできた。日本とタイからの参加者によるそれぞれの報告会では、充実したフィールドワークの成果が報告され、質疑応答も活発に行われた。

タイからの帰国後に本学の参加者たちは「国際社会ジェンダー論」で、タイでのフィールドワークや AIT での学びを言語化し、報告会と報告書作成に向けて共同作業で準備を進めていった。これは派遣されたという経験で終わらせることなく、その経験を咀嚼し、グローバルな流れの中に位置づけ直し、自身の見聞きした情報を体系づけていく作業を通してより理解と思索を深める機会を得るためである。

「ジェンダーと開発 (Gender and Development: GAD)」にかかわる課題群の分析方法や視座、また海外におけるフィールドワークの基礎を学ぶことが目的の本プログラムによって、参加者は国際協力や開発援助、市民運動に直に触れ、フェミニスト視点から議論する機会を得ることができたといえるだろう。

2) 大学院（人間文化創成科学研究科）における次世代研究者育成

ジェンダー研究所はジェンダーの視点から学際的・国際的な研究を推進する次世代の研究者育成も行っている。IGS 所属教員の指導のもと、2024 年度は以下の院生が博士前期課程・博士後期課程を修了した。

2024 年度 博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

● IGS 所属教員が主査を務めた 2024 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

【氏名】 渋谷 明香

【主査】 大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

タイの女性監督が挑むインディペンデント映画の新たな潮流——ニューウェイブ以降の動向に着目して——

【要旨】

本研究は、タイ出身のインディペンデント映画の女性映画制作者にフォーカスを当て、彼女たちが映画産業に参入するのにどのような障壁があったのか、また表現の自由に対してどのような課題をかかえてきたのかを探究するものである。タイの映画産業は歴史的に男性中心であったが、タイ・ニューウェイブ・シネマと呼ばれる 1990 年代後期の映画運動以降になると女性たちの参入が増えていった。さまざまな制約がある中で、短編作品・長編作品を継続的に制作し続けてきた女性監督たちがどのようにしてそれを達成できたのかを、作品の分析と映画監督の経験から明らかにした。

【氏名】 高橋 奏音

【主査】 大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

米軍基地周辺地域におけるセクシュアリティの統制——戦後の立川・国立における浄化運動を事例に——

【要旨】

本論文は、女性のセクシュアリティをめぐる規範が近代化の下での都市形成やそのなかで生きる人びとの社会意識にどのような影響をもたらしてきたのかを、戦後の旧米軍立川基地周辺の砂川・国立の事例から考察するものである。1955 年からの反基地拡張運動である砂川闘争の「成功」の背後では、女性差別の問題が不可視化されてきた。「パンパン（占領軍相手の売春女性、とくに街娼）」が風紀を取り締まる目的において排斥され、一方で反基地拡張運動に参加する女性たちが称揚された。本研究は戦後近代化のなかで廃娼・浄化運動を推進した砂川村と国立町の事例を通して、運動に関わったアクターたちの「パンパン」らに対する意識や排除の動機、背景に存在する規範を検討する。

● IGS 所属教員が主査を務めた 2024 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

【氏名】 田中 青葉

【主査】 大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

アメジョとは誰か——コンタクト・ゾーンとしての沖縄で交差する経験から——

【要旨】

本研究では、米軍基地が未だに残存し、反基地運動が絶えない中で、米軍人と親密な関係を結ぶアメジョと呼ばれる女性たちに着目する。日頃から米軍関連の報道やニュースを見て、基地の戦闘機の音を聞いて育った沖縄の女性たちが、そのような状況においてもなお沖縄の中で米軍人とともに生きることは、沖縄の社会でどのような意味をなすのかを検討する。そして、沖縄というポストコロニアルな空間で生きるアメジョたちに焦点を当て、彼女たちのライフストーリーを記述することで、コンタクト・ゾーンとしての沖縄で生きる複雑性を解明することを目的とする。

2024 年度 博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

● IGS 所属教員が副査を務めた 2024 年度博士後期課程学位取得者と論文タイトル

【氏名】 新村 恵美

【副査】 大橋 史恵（IGS 准教授）

【博士論文タイトル】

インドの就業構造の変化と有配偶女性の世帯内意思決定

——エンパワーメントの枠組みを使った分析——

3) 2024 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

申琪榮（教授）

ジェンダー学際研究報告（総集）（通年不定期）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

比較政治論（前期）

大橋史恵（准教授）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年）

ジェンダー学際研究報告（総集）（通年）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年）

ジェンダー政治経済学（前期）

ジェンダー政治経済学演習（後期）

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

申琪榮（教授）

フェミニズム理論の争点（前期）

国際社会ジェンダー論（後期）

国際社会ジェンダー論演習（前期）

大橋史恵（准教授）

ジェンダー社会経済学（前期）

ジェンダー社会経済学演習（後期）

嶽本新奈（特任講師）

国際社会ジェンダー論（後期）

※（本報告書 52～53 頁「AIT ワークショップ」参照）

《学部》

戸谷陽子（教授）

ジェンダー 3 文化メディアとジェンダー

英文学特殊講義VI Advanced Lectures in English Literature VI

大橋史恵（准教授）

アジア社会とジェンダー I（後期）

アジア社会とジェンダー II（前期）

グローバル文化学実習 II（通年不定期）

グローバル文化学総論（前期）

ジェンダー 2 グローバル経済とジェンダー（前期）